

当ファンドの仕組みは、次の通りです。

商品分類	追加型投信／内外／株式／インデックス型	
信託期間	無期限（設定日：2022年1月31日）	
運用方針	SBI・V・全世界株式インデックス・マザーファンド受益証券への投資を通じて、主としてETF（上場投資信託証券）に投資し、FTSE グローバル・オールキャップ・インデックス（円換算ベース）に連動する投資成果をめざして運用を行います。	
主要投資対象	当ファンド (ベビーファンド)	SBI・V・全世界株式インデックス・マザーファンド受益証券を主要投資対象とします。
	マザーファンド	ETF（上場投資信託証券）を主要投資対象とします。
運用方法	当ファンド (ベビーファンド)	SBI・V・全世界株式インデックス・マザーファンド受益証券への投資を通じて、主としてETF（上場投資信託証券）に投資し、FTSE グローバル・オールキャップ・インデックス（円換算ベース）に連動する投資成果をめざして運用を行います。
	マザーファンド	ETF（上場投資信託証券）への投資を通じて、FTSE グローバル・オールキャップ・インデックス（円換算ベース）に連動する投資成果をめざして運用を行います。
分配方針	年1回（毎年1月27日。ただし、休業日の場合は翌営業日）決算を行い、原則として以下の方針に基づいて収益の分配を行います。分配対象額の範囲は、繰越分も含めた経費控除後の配当等収益（マザーファンドの信託財産に属する配当等収益のうち、信託財産に属するとみなした額（以下「みなし配当等収益」といいます。）を含みます。）および売買益（評価損益を含み、みなし配当等収益を控除して得た額とします。）等の全額とします。収益分配金額は、委託会社が基準価額水準、市況動向等を勘案して分配金額を決定します。ただし、分配対象額が少額の場合等には、委託会社の判断により分配を行わないことがあります。留保益の運用については、特に制限を定めず、委託会社の判断に基づき、元本部分と同一の運用を行います。	

運用報告書（全体版）

第2期

（決算日：2024年1月29日）

SBI・V・全世界株式 インデックス・ファンド （愛称：SBI・V・全世界株式）

追加型投信／海外／株式／インデックス型

受益者のみなさまへ

平素は格別のご愛顧を賜り厚く御礼申し上げます。さて、「SBI・V・全世界株式インデックス・ファンド（愛称：SBI・V・全世界株式）」は、2024年1月29日に第2期決算を行いました。ここに期中の運用状況をご報告申し上げます。今後とも引き続きお引き立て賜りますようお願い申し上げます。

SBIアセットマネジメント株式会社

東京都港区六本木1-6-1

お問い合わせ先

電話番号 03-6229-0097

受付時間：営業日の9：00～17：00

ホームページから、ファンドの商品概要、レポート等をご覧いただけます。
<https://www.sbiam.co.jp/>

○設定以来の運用実績

決算期	基準価額			ベンチマーク		投資信託証券 組入比率	純資産 総額
	(分配落)	税込 分配金	期中 騰落率		期中 騰落率		
(設定日) 2022年1月31日	円 10,000	円 —	% —	10,000	% —	% —	百万円 3,670
1期(2023年1月27日)	10,356	0	3.6	10,422	4.2	99.5	18,744
2期(2024年1月29日)	13,467	0	30.0	13,664	31.1	99.4	35,839

(注1) 設定日の基準価額は、設定時の価額です。

(注2) 設定日の純資産は、設定元本を表示しています。

(注3) ベンチマークはFTSE グローバル・オールキャップ・インデックスを委託会社にて円換算しています。

(注4) ベンチマークは、設定日の値が当ファンドの基準価額と同一になるよう指数化しています。

(注5) ベンチマークの騰落率は国内の取引所の営業日に準じて算出しています。

○当期中の基準価額と市況等の推移

年月日	基準価額		ベンチマーク		投資信託証券 組入比率
		騰落率		騰落率	
(期首) 2023年1月27日	円 10,356	% —	10,422	% —	% 99.5
1月末	10,306	△ 0.5	10,427	0.0	99.5
2月末	10,590	2.3	10,697	2.6	99.9
3月末	10,506	1.4	10,607	1.8	99.2
4月末	10,750	3.8	10,834	3.9	99.4
5月末	11,213	8.3	11,346	8.9	99.5
6月末	12,070	16.6	12,220	17.2	99.6
7月末	12,278	18.6	12,423	19.2	99.5
8月末	12,428	20.0	12,584	20.7	99.4
9月末	12,174	17.6	12,319	18.2	99.1
10月末	11,727	13.2	11,878	14.0	99.1
11月末	12,590	21.6	12,762	22.4	99.6
12月末	12,820	23.8	13,022	24.9	99.6
(期末) 2024年1月29日	13,467	30.0	13,664	31.1	99.4

(注1) 騰落率は期首比です。

(注2) ベンチマークはFTSE グローバル・オールキャップ・インデックスを委託会社にて円換算しています。

(注3) ベンチマークは、設定日の値が当ファンドの基準価額と同一になるよう指数化しています。

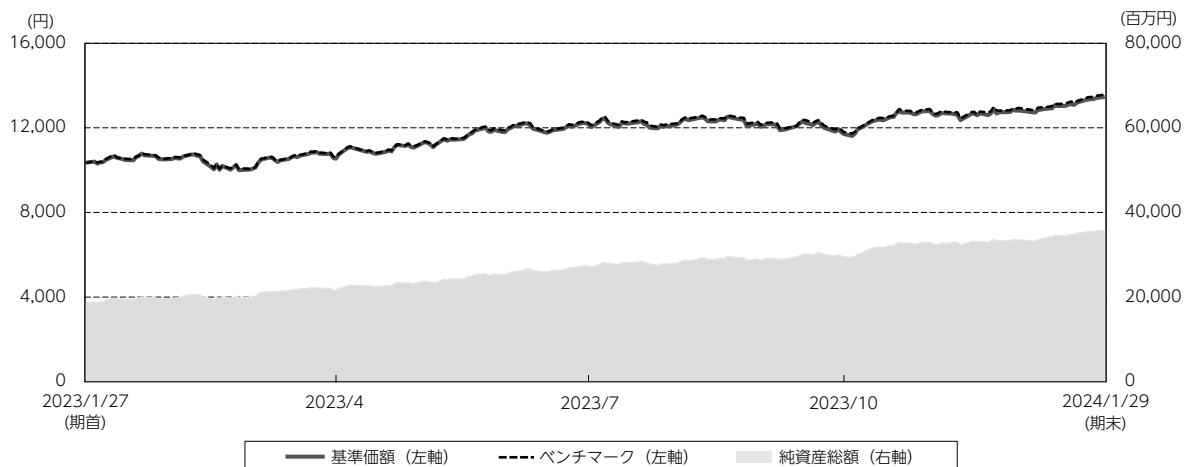
(注4) ベンチマークの騰落率は国内の取引所の営業日に準じて算出しています。

ベンチマーク：FTSE グローバル・オールキャップ・インデックス (円換算ベース)

FTSEグローバル・オールキャップ・インデックスとは、大型株、中型株及び小型株までを網羅する全世界の株式市場の値動きを表す時価総額加重平均型の株価指数です。なお、FTSEグローバル・オールキャップ・インデックス (円換算ベース) は、FTSEグローバル・オールキャップ・インデックスをもとに、委託会社が円換算したものです。

■当期の運用状況と今後の運用方針（2023年1月28日から2024年1月29日まで）

○基準価額等の推移



期 首：10,356 円

期 末：13,467 円（既払分配金（税込み）：0 円）

騰落率： 30.0%

(注1) ベンチマークは、FTSE グローバル・オールキャップ・インデックスを委託会社にて円換算しています。詳細はP1をご参照ください。

(注2) ベンチマークは、期首（2023年1月27日）の値が当ファンドの基準価額と同一になるよう指数化しています。

(注3) 当ファンドは、設定日以降分配を行っていないため分配金再投資基準価額は記載していません。

(注4) ベンチマークの値は国内の取引所の営業日に準じて算出しています。

○基準価額の主な変動要因

上昇要因

- ・米消費者物価指数（CPI）の伸び鈍化による米国金融政策の緩和への期待
- ・米国景気の軟着陸への期待
- ・人工知能（AI）関連の半導体需要増への期待によるハイテク株高
- ・対円で米ドルが上昇したこと

下落要因

- ・米連邦準備制度理事会（FRB）の積極的な政策金利引上げ
- ・米国債の格下げによりリスク回避が強まったこと
- ・米国金融機関の破綻に伴う信用不安によりリスク回避が強まったこと
- ・米国債務上限問題によりリスク回避が強まったこと

○投資環境

<先進国株式市場>

期初、米国市場を代表するS&P500種指数は4,000台で始まり、2023年2月に雇用の大幅増加、CPIの上ぶれや堅調な小売売上高に伴う高インフレ懸念や3月に米国金融機関の破綻に伴う信用不安などにより、S&P500種指数は調整局面に入りましたが、当局の対応などからやや値を戻し、3月は上昇しました。4月から5月末にかけては、レンジ相場が続きました。6月は米債務上限適用停止法案の可決・成立を受けてリスク選好が改善する中、堅調な雇用統計などが好感されて上昇しました。7月はCPIの鈍化、企業の好決算などを受けて、S&P500種指数が更に上昇しました。8月は米国債の格下げからリスク回避の動きが強まるとともに、米長期金利上昇が嫌気され、下落しました。9月は原油高や堅調な米サービス業景況感を受けて長期金利が上昇する中、ハイテク株などが売られ、S&P500種指数が一段と下落しました。10月は、高金利が長期化するととの観測に伴い、需要の先行き不透明感が強まったことから、S&P500種指数が一段と下落しました。しかし、11月から期末にかけて、米連邦公開市場委員会（FOMC）で追加利上げが強く示唆されなかったことなどから長期金利が大幅に低下する中、ハイテク株などが買われ、S&P500種指数は上昇しました。通期ではS&P500種指数は上昇し、4,900台で期末を迎えました。

<新興国株式市場>

2023年2月はドル高や米金利上昇を受けてハイテク株などが軟化したほか、インドでは新興財閥の不正会計疑惑などにより、新興国株式市場が下落に転じました。6月から7月にかけて、中国当局による景気刺激策への期待と米ハイテク株高による半導体関連株高などから、新興国株式市場は上昇しました。8月から10月にかけて、米長期金利上昇、中国景気への懸念などから新興国株式市場が下落しました。11月は、米長期金利低下が好感されて新興国株式市場が上昇しました。通期では新興国株式市場はほぼ横ばいとなりました。

<為替>

当期、米ドル円相場は129円台で始まり、2023年2月は堅調な米雇用統計や、米サービス業景気指数の予想を上回る改善などから、ドル高・円安が進みました。しかし、3月は米銀破綻を受けて米金融システム不安が強まる中、ドル安・円高が進みました。4月から6月末にかけて、FRBによる利上げ継続観測、米債務上限問題を巡る過度な懸念後退、日銀の金融政策の現状維持などから、ドル高・円安が進みました。その後、米雇用統計の結果が市場予想を下回ったことや日本銀行の政策変更の可能性が市場で意識されたことなどからドル安・円高方向へ急速に転じました。しかしながら、米GDPの上振れなどにより7月中旬から期末にかけてドル高・円安が進みました。8月から10月にかけて、米長期金利が上昇する中、日米金利差の拡大が意識され、ドル高・円安が続きました。11月から2024年1月にかけて、FOMCを受けた追加利上げ観測の後退などからドル安・円高方向に転じました。1月に入り、強めの米景気指標の発表や、日本銀行が金融緩和策の修正を行わなかったことから、ドル高円安に振れました。通期では、ドル高・円安が進み、148円台で期末を迎えました。

○当ファンドのポートフォリオ

<当ファンド>

ベンチマークである「FTSE グローバル・オールキャップ・インデックス（円換算ベース）」に連動する投資成果をめざし、主要投資対象であるSBI・V・全世界株式インデックス・マザーファンド受益証券を高位に組み入れて運用を行いました。

<SBI・V・全世界株式インデックス・マザーファンド>

ベンチマークである「FTSE グローバル・オールキャップ・インデックス（円換算ベース）」に連動する投資成果をめざして運用を行ってまいりました。

また、ファンドの運用にあたっては、ザ・バンガード・グループ・インクが運用を行う「バンガード・トータル・ワールド・ストック ETF」を主要投資対象として運用を行いました。

なお、当期の投資信託証券の組入比率に関しては、99%以上の組入比率を維持しました。期末の組入比率は99.3%となっております。

○当ファンドのベンチマークとの差異

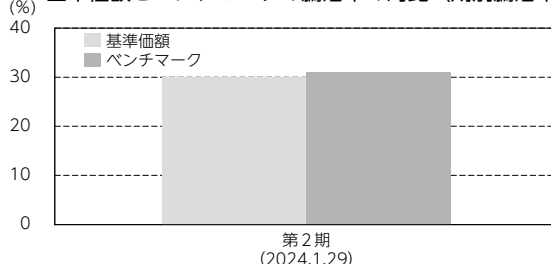
期中における基準価額は、30.0%の上昇となり、ベンチマークである「FTSE グローバル・オールキャップ・インデックス（円換算ベース）」の騰落率である31.1%の上昇を概ね1.1%下回りましたが、個別には以下のようなプラス要因、マイナス要因があります。

（マイナス要因がプラス要因を上回りました。）

主なプラス要因：ファンドとベンチマークにおいて適用される配当税率の差異

主なマイナス要因：ファンドと組入ETFにおける信託報酬、運用コストおよびファンドのキャッシュポジション

基準価額とベンチマークの騰落率の対比（期別騰落率）



(注) ベンチマークはFTSE グローバル・オールキャップ・インデックス（円換算ベース）です。詳細はP1をご参照ください。

○分配金

当期の収益分配は、運用の効率性と基準価額の水準を勘案し見送ることといたしました。

なお、収益分配にあてなかった利益につきましては、信託財産内に留保し、運用の基本方針に基づいて運用いたします。

分配原資の内訳

(単位：円、1万口当たり、税込み)

項 目	第2期
	2023年1月28日～ 2024年1月29日
当期分配金	—
(対基準価額比率)	—%
当期の収益	—
当期の収益以外	—
翌期繰越分配対象額	3,466

(注1) 対基準価額比率は当期分配金(税込み)の期末基準価額(分配金込み)に対する比率であり、ファンドの収益率とは異なります。

(注2) 当期の収益、当期の収益以外は小数点以下切捨てで算出しているため合計が当期分配金と一致しない場合があります。

○今後の運用方針

<当ファンド>

引き続き、ベンチマークである「FTSE グローバル・オールキャップ・インデックス (円換算ベース)」に連動する投資成果をめざし、主要投資対象であるSBI・V・全世界株式インデックス・マザーファンド受益証券を高位に組み入れて運用を行う方針です。また、現金比率を極力抑え連動率を高めていく所存です。

<SBI・V・全世界株式インデックス・マザーファンド>

引き続き、「バンガード・トータル・ワールド・ストックETF」を主要投資対象とし、ベンチマークである「FTSE グローバル・オールキャップ・インデックス (円換算ベース)」に連動する投資成果をめざして運用を行います。

○1万口当たりの費用明細

(2023年1月28日～2024年1月29日)

項 目	当 期		項 目 の 概 要
	金 額	比 率	
(a) 信託報酬 (投 信 会 社) (販 売 会 社) (受 託 会 社)	円 7 (3) (3) (2)	% 0.064 (0.024) (0.024) (0.015)	(a) 信託報酬＝期中の平均基準価額×信託報酬率 委託した資金の運用の対価 交付運用報告書等各種書類の送付、口座内でのファンドの管理、 購入後の情報提供等の対価 運用財産の管理、投信会社からの指図の実行の対価
(b) 売買委託手数料	—	—	(b) 売買委託手数料＝期中の売買委託手数料÷期中の平均受益権 口数 ※売買委託手数料は、有価証券等の売買の際、売買仲介人に 支払う手数料
(c) 有価証券取引税	—	—	(c) 有価証券取引税＝期中の有価証券取引税÷期中の平均受益権 口数 ※有価証券取引税は、有価証券の取引の都度発生する取引に 関する税金
(d) その他費用 (保 管 費 用) (監 査 費 用) (印 刷)	2 (1) (0) (1)	0.017 (0.010) (0.003) (0.005)	(d) その他費用＝期中のその他費用÷期中の平均受益権口数 保管費用は、海外における保管銀行等に支払う有価証券等の保管 及び資金の送金・資産の移転等に要する費用 監査費用は、監査法人等に支払うファンドの監査に係る費用 開示資料等の作成・印刷費用等
合 計	9	0.081	
期中の平均基準価額は、11,621円です。			

(注1) 期中の費用(消費税等のかかるものは消費税等を含む)は、追加・解約により受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。

(注2) 消費税は報告日の税率を採用しています。

(注3) 項目ごとに円未満は四捨五入しています。

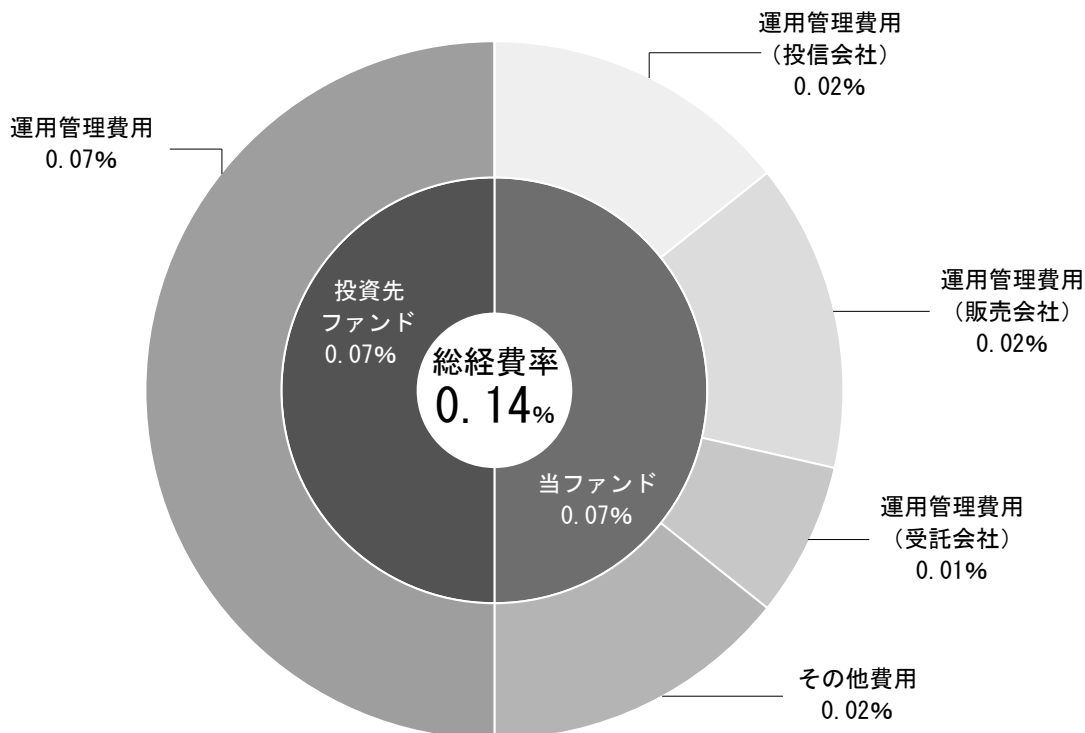
(注4) 売買委託手数料、有価証券取引税及びその他費用は、当ファンドが組入れているマザーファンドが支払った金額のうち、当ファンドに対応するものを含みます。

(注5) 各比率は1万口当たりのそれぞれの費用金額を期中の平均基準価額で除して100を乗じたものです。

(参考情報)

○総経費率

当期中の運用・管理にかかった費用の総額（原則として、募集手数料、売買委託手数料及び有価証券取引税を除く。）を期中の平均受益権口数に期中の平均基準価額（1口当たり）を乗じた数で除した**総経費率(年率)**は**0.14%**です。



総経費率 (①+②)	0.14%
①当ファンドの費用の比率	0.07%
②投資先ファンドの運用管理費用の比率	0.07%

(注1) ①の費用は、1万口当たりの費用明細において用いた簡便法により算出したものです。

(注2) 各費用は、原則として、募集手数料、売買委託手数料及び有価証券取引税を含みません。

(注3) 各比率は、年率換算した値です。なお、四捨五入の関係により、合計が一致しない場合があります。

(注4) 投資先ファンドとは、当ファンドまたはマザーファンドが組み入れている投資信託証券（マザーファンドを除く）です。

(注5) ①の費用は、マザーファンドが支払った費用を含み、投資先ファンドが支払った費用を含みません。

(注6) ①と②の費用は、計上された期間が異なる場合があります。

(注7) 投資先ファンドについては、運用会社等より入手した概算値を使用している場合があります。

(注8) 上記の前提条件で算出したものです。このため、これらの値はあくまでも参考であり、実際に発生した費用の比率とは異なります。

○売買及び取引の状況

(2023年1月28日～2024年1月29日)

親投資信託受益証券の設定、解約状況

銘柄	設定		解約	
	口数	金額	口数	金額
SBI・V・全世界株式インデックス・マザーファンド	千口 13,461,008	千円 15,989,190	千口 5,006,931	千円 6,122,660

(注) 単位未満は切捨て。

○利害関係人との取引状況等

(2023年1月28日～2024年1月29日)

該当事項はありません。

利害関係人とは、投資信託及び投資法人に関する法律第11条第1項に規定される利害関係人です。

○組入資産の明細

(2024年1月29日現在)

親投資信託残高

銘柄名	期首(前期末)	当期末	
	口数	口数	評価額
SBI・V・全世界株式インデックス・マザーファンド	千口 18,111,849	千口 26,565,926	千円 35,850,717

(注) 単位未満は切捨て。

マザーファンドにおける組入資産の明細につきましては、後述のマザーファンドの「運用報告書」をご参照ください。

○投資信託財産の構成

(2024年1月29日現在)

項 目	当 期 末	
	評 価 額	比 率
	千円	%
SBI・V・全世界株式インデックス・マザーファンド	35,850,717	99.8
コール・ローン等、その他	85,270	0.2
投資信託財産総額	35,935,987	100.0

(注1) 評価額の単位未満は切捨て。

(注2) SBI・V・全世界株式インデックス・マザーファンドにおいて、当期末における外貨建て純資産(35,615,743千円)の投資信託財産総額(35,935,064千円)に対する比率は99.1%です。

(注3) 外貨建て資産は、当期末の時価をわが国の対顧客電信売買相場の仲値により円換算したものです。なお、1月29日における円換算レートは、1ドル=148.25円です。

○特定資産の価格等の調査

該当事項はありません。

○資産、負債、元本及び基準価額の状況 (2024年1月29日現在)

項 目	当 期 末
(A)資 産	35,935,987,453円
コール・ローン等	20,045
SBI・V・全世界株式インデックス・マザーファンド(評価額)	35,850,717,408
未 収 入 金	85,250,000
(B)負 債	96,175,229
未 払 解 約 金	85,236,342
未 払 信 託 報 酬	10,056,905
そ の 他 未 払 費 用	881,982
(C)純 資 産 総 額(A-B)	35,839,812,224
元 本	26,613,409,111
次 期 繰 越 損 益 金	9,226,403,113
(D)受 益 権 総 口 数	26,613,409,111口
1万口当たり基準価額(C/D)	13,467円

<注記事項(運用報告書作成時には監査未了)>

(貸借対照表関係)

期首元本額	18,100,353,213円
期中追加設定元本額	14,784,731,202円
期中一部解約元本額	6,271,675,304円

○損益の状況 (2023年1月28日~2024年1月29日)

項 目	当 期
(A)有 価 証 券 売 買 損 益	6,427,747,281円
売 買 損 益	7,206,417,749
売 買 損 益	△ 778,670,468
(B)信 託 報 酬 等	△ 19,176,058
(C)当 期 損 益 金(A+B)	6,408,571,223
(D)前 期 繰 越 損 益 金	288,861,887
(E)追 加 信 託 差 損 益 金	2,528,970,003
(配 当 等 相 当 額)	(320,388,590)
(売 買 損 益 相 当 額)	(2,208,581,413)
(F) 計 (C+D+E)	9,226,403,113
(G)收 益 分 配 金	0
次 期 繰 越 損 益 金(F+G)	9,226,403,113
追 加 信 託 差 損 益 金	2,528,970,003
(配 当 等 相 当 額)	(350,358,194)
(売 買 損 益 相 当 額)	(2,178,611,809)
分 配 準 備 積 立 金	6,697,433,110

(注1) 損益の状況の中で(A)有価証券売買損益は期末の評価換えによるものを含みます。

(注2) 損益の状況の中で(B)信託報酬等には信託報酬に対する消費税等相当額を含めて表示しています。

(注3) 損益の状況の中で(E)追加信託差損益金とあるのは、信託の追加設定の際、追加設定をした価額から元本を差し引いた差額分をいいます。

(注4) 計算期間末における費用控除後の配当等収益(556,492,696円)、費用控除後の有価証券等損益額(5,852,078,527円)、信託約款に規定する収益調整金(2,528,970,003円)および分配準備積立金(288,861,887円)より分配対象収益は9,226,403,113円(10,000口当たり3,466円)ですが、当期に分配した金額はありません。

本ファンドは、FTSEインターナショナルリミテッド(以下「FTSE」といいます。)、ロンドン証券取引所(以下「LSEG」といいます。)(総称して、以下「ライセンス供与者」といいます。)のいずれによっても、支援、推奨、販売または販売促進するものではありません。ライセンス供与者は、「FTSEグローバル・オールキャップ・インデックス」(以下、「本指数」といいます。)の使用及びいかなる時点における本指数値の利用から生じるいかなる結果に対しても、明示的か黙示的かを問わず、何ら表明や保証を行うものではありません。本指数はFTSEによって編集及び計算されます。ライセンス供与者は、本指数の誤りについて何人に対しても責任を負わず(過失の有無を問わず)、かつ本指数の誤りに関して通知する義務を負いません。FTSE®はLSEGの商標であり、FTSEがライセンスに基づき使用しています。

第2期 運用報告書

(決算日：2024年1月29日)

SBI・V・全世界株式インデックス・マザーファンド

受益者のみなさまへ

SBI・V・全世界株式インデックス・マザーファンドの第2期（2023年1月28日から2024年1月29日まで）の運用状況をご報告申し上げます。

当マザーファンドの仕組みは、次の通りです。

運用方針	全世界の株式市場の動きを捉えることをめざすFTSE グローバル・オールキャップ・インデックス（円換算ベース）に連動する投資成果を目標として運用を行います。
主要投資対象	ETF（上場投資信託証券）を主要投資対象とします。
組入制限	投資信託証券への投資割合には制限を設けません。 外貨建資産への投資割合には制限を設けません。 株式への直接投資は行いません。 デリバティブの直接利用は行いません。 外国為替予約取引は、為替変動リスクを回避する目的以外には利用しません。

○設定以来の運用実績

決算期	基準価額		ベンチマーク		投資信託証券 組入比率	純資産 総額
	(分配落)	期中 騰落率		期中 騰落率		
(設定日) 2022年1月31日	円 10,000	% —		% —	% —	百万円 3,670
1期(2023年1月27日)	10,369	3.7	10,422	4.2	99.3	18,779
2期(2024年1月29日)	13,495	30.1	13,664	31.1	99.3	35,849

(注1) 設定日の基準価額は、設定時の価額です。

(注2) 設定日の純資産は、設定元本を表示しています。

(注3) ベンチマークはFTSE グローバル・オールキャップ・インデックスを委託会社にて円換算しています。

(注4) ベンチマークは、設定日の値が当ファンドの基準価額と同一になるよう指数化しています。

(注5) ベンチマークの騰落率は国内の取引所の営業日に準じて算出しています。

○当期中の基準価額と市況等の推移

年月日	基準価額		ベンチマーク		投資信託証券 組入比率
		騰落率		騰落率	
(期首) 2023年1月27日	円 10,369	% —		% —	% 99.3
1月末	10,319	△0.5	10,427	0.0	99.4
2月末	10,604	2.3	10,697	2.6	99.8
3月末	10,522	1.5	10,607	1.8	99.2
4月末	10,767	3.8	10,834	3.9	99.2
5月末	11,232	8.3	11,346	8.9	99.5
6月末	12,091	16.6	12,220	17.2	99.6
7月末	12,300	18.6	12,423	19.2	99.5
8月末	12,451	20.1	12,584	20.7	99.4
9月末	12,197	17.6	12,319	18.2	99.1
10月末	11,750	13.3	11,878	14.0	99.1
11月末	12,615	21.7	12,762	22.4	99.6
12月末	12,846	23.9	13,022	24.9	99.6
(期末) 2024年1月29日	13,495	30.1	13,664	31.1	99.3

(注1) 騰落率は期首比です。

(注2) ベンチマークはFTSE グローバル・オールキャップ・インデックスを委託会社にて円換算しています。

(注3) ベンチマークは、設定日の値が当ファンドの基準価額と同一になるよう指数化しています。

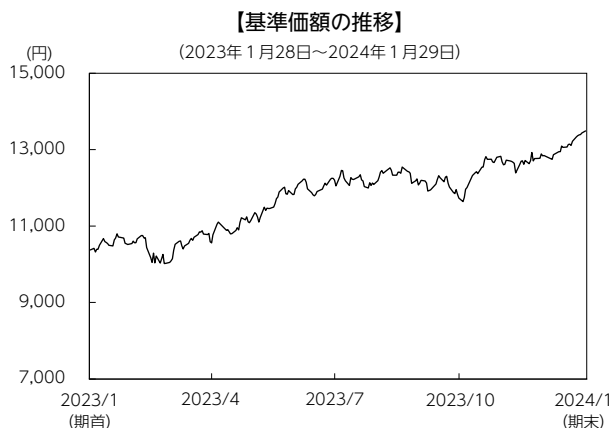
(注4) ベンチマークの騰落率は国内の取引所の営業日に準じて算出しています。

ベンチマーク：FTSE グローバル・オールキャップ・インデックス (円換算ベース)

FTSEグローバル・オールキャップ・インデックスとは、大型株、中型株及び小型株までを網羅する全世界の株式市場の値動きを表す時価総額加重平均型の株価指数です。なお、FTSEグローバル・オールキャップ・インデックス (円換算ベース) は、FTSEグローバル・オールキャップ・インデックスをもとに、委託会社が円換算したものです。

■当期の運用状況と今後の運用方針（2023年1月28日から2024年1月29日まで）

○基準価額等の推移



当マザーファンドの基準価額は期首10,369円で始まったあと、期末には13,495円となりました。期を通じて騰落率は30.1%となりました。

	期首	期中高値	期中安値	期末
日付	2023/1/27	2024/1/29	2023/3/23	2024/1/29
基準価額 (円)	10,369	13,495	10,020	13,495

○投資環境

<先進国株式市場>

期初、米国市場を代表するS&P500種指数は4,000台で始まりしました。2023年2月に雇用の大幅増加、CPIの上ぶれや堅調な小売売上高に伴う高インフレ懸念や3月に米国金融機関の破綻に伴う信用不安などにより、S&P500種指数は調整局面に入りましたが、当局の対応などからやや値を戻し、3月は上昇しました。4月から5月末にかけては、レンジ相場が続きました。6月は米債務上限適用停止法案の可決・成立を受けてリスク選好が改善する中、堅調な雇用統計などが好感されて上昇しました。7月はCPIの鈍化、企業の好決算などを受けて、S&P500種指数が更に上昇しました。8月は米国債の格下げからリスク回避の動きが強まるとともに、米長期金利上昇が嫌気され、下落しました。9月は原油高や堅調な米サービス業景況感を受けて長期金利が上昇する中、ハイテク株などが売られ、S&P500種指数が一段と下落しました。10月は、高金利が長期化するとの観測に伴い、需要の先行き不透明感が強まったことから、S&P500種指数が一段と下落しました。しかし、11月から期末にかけて、米連邦公開市場委員会（FOMC）で追加利上げが強く示唆されなかったことなどから長期金利が大幅に低下する中、ハイテク株などが買われ、S&P500種指数は上昇しました。通期ではS&P500種指数は上昇し、4,900台で期末を迎えました。

<新興国株式市場>

2023年2月はドル高や米金利上昇を受けてハイテク株などが軟化したほか、インドでは新興財閥の不正会計疑惑などにより、新興国株式市場が下落に転じました。6月から7月にかけて、中国当局による景気刺激策への期待と米ハイテク株高による半導体関連株高などから、新興国株式市場は上昇しました。8月から10月にかけて、米長期金利上昇、中国景気への懸念などから新興国株式市場が下落しました。11月は、米長期金利低下が好感されて新興国株式市場が上昇しました。通期では新興国株式市場はほぼ横ばいとなりました。

<為替>

当期、米ドル円相場は129円台で始まり、2023年2月は堅調な米雇用統計や、米サービス業景気指数の予想を上回る改善などから、ドル高・円安が進展しました。しかし、3月は米銀破綻を受けて米金融システム不安が強まる中、ドル安・円高が進みました。4月から6月末にかけて、FRBによる利上げ継続観測、米債務上限問題を巡る過度な懸念後退、日銀の金融政策の現状維持などから、ドル高・円安が進みました。その後、米雇用統計の結果が市場予想を下回ったことや日本銀行の政策変更の可能性が市場で意識されたことなどからドル安・円高方向へ急速に転じました。しかしながら、米GDPの上振れなどにより7月中旬から期末にかけてドル高・円安が進みました。8月から10月にかけて、米長期金利が上昇する中、日米金利差の拡大が意識され、ドル高・円安が続きました。11月から2024年1月にかけて、FOMCを受けた追加利上げ観測の後退などからドル安・円高方向に転じました。1月に入り、強めの米景気指標の発表や、日本銀行が金融緩和策の修正を行わなかったことから、ドル高円安に振れました。通期では、ドル高・円安が進み、148円台で期末を迎えました。

○当ファンドのポートフォリオ

ベンチマークである「FTSE グローバル・オールキャップ・インデックス（円換算ベース）」に連動する投資成果をめざして運用を行ってまいりました。

また、ファンドの運用にあたっては、ザ・バンガード・グループ・インクが運用を行う「バンガード・トータル・ワールド・ストックETF」を主要投資対象として運用を行いました。

なお、当期の投資信託証券の組入比率に関しては、99%以上の組入比率を維持しました。期末の組入比率は99.3%となっております。

○当ファンドのベンチマークとの差異

期中における基準価額は、30.1%の上昇となり、ベンチマークである「FTSE グローバル・オールキャップ・インデックス（円換算ベース）」の騰落率である31.1%の上昇を概ね1.0%下回りましたが、個別には以下のようなプラス要因、マイナス要因があります。

（マイナス要因がプラス要因を上回りました。）

主なプラス要因：ファンドとベンチマークにおいて適用される配当税率の差異

主なマイナス要因：ファンドと組入ETFにおける信託報酬、運用コストおよびファンドのキャッシュポジション

○今後の運用方針

引き続き、「バンガード・トータル・ワールド・ストックETF」を主要投資対象とし、ベンチマークである「FTSE グローバル・オールキャップ・インデックス（円換算ベース）」に連動する投資成果をめざして運用を行います。

○1万口当たりの費用明細

(2023年1月28日～2024年1月29日)

項 目	当 期		項 目 の 概 要
	金 額	比 率	
(a) 売買委託手数料	円 —	% —	(a) 売買委託手数料＝期中の売買委託手数料÷期中の平均受益権口数 売買委託手数料は、有価証券等の売買の際、売買仲介人に支払う手数料
(b) 有価証券取引税	—	—	(b) 有価証券取引税＝期中の有価証券取引税÷期中の平均受益権口数 有価証券取引税は、有価証券の取引の都度発生する取引に関する税金
(c) その他費用 (保管費用)	1 (1)	0.010 (0.010)	(c) その他費用＝期中のその他費用÷期中の平均受益権口数 保管費用は、海外における保管銀行等に支払う有価証券等の保管及び資金の送金・資産の移転等に要する費用
合 計	1	0.010	
期中の平均基準価額は、11,641円です。			

(注1) 期中の費用（消費税等のかかるものは消費税等を含む）は、追加・解約により受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。

(注2) 項目ごとに円未満は四捨五入しております。

(注3) 各比率は1万口当たりのそれぞれの費用金額を期中の平均基準価額で除して100を乗じたものです。

○売買及び取引の状況

(2023年1月28日～2024年1月29日)

投資信託証券

銘 柄		買 付		売 付	
		口 数	金 額	口 数	金 額
外国	アメリカ	口	千ドル	口	千ドル
	VANGUARD TOT WORLD STK ETF	809,264	76,622	42,678	4,000

(注) 単位未満は切捨て。

○利害関係人との取引状況等

(2023年1月28日～2024年1月29日)

該当事項はありません。

利害関係人とは、投資信託及び投資法人に関する法律第11条第1項に規定される利害関係人です。

○組入資産の明細

(2024年1月29日現在)

外国投資信託証券

銘柄名	期首(前期末)	当 期 末			比 率	
	口 数	口 数	評 価 額			
			外貨建金額	円換算金額		
(アメリカ)	口	口	千ドル	千円	%	
VANGUARD TOT WORLD STK ETF	1,551,215	2,317,801	240,240	35,615,590	99.3	
合 計	口数・金額	1,551,215	2,317,801	240,240	35,615,590	99.3
	銘柄数<比率>	1	1	—	<99.3%>	

(注1) 円換算金額は期末の時価をわが国の対顧客電信売買相場の仲値により円換算したものです。

(注2) 比率欄は、純資産総額に対する評価額の比率です。

(注3) 評価額の単位未満は切捨て。

○投資信託財産の構成

(2024年1月29日現在)

項 目	当 期 末	比 率
	評 価 額	
	千円	%
投資信託受益証券	35,615,590	99.1
コール・ローン等、その他	319,474	0.9
投資信託財産総額	35,935,064	100.0

(注1) 評価額の単位未満は切捨て。

(注2) 当期末における外貨建て純資産 (35,615,743千円) の投資信託財産総額 (35,935,064千円) に対する比率は99.1%です。

(注3) 外貨建て資産は、当期末の時価をわが国の対顧客電信売買相場の仲値により円換算したものです。なお、1月29日における円換算レートは、1ドル=148.25円です。

○特定資産の価格等の調査

該当事項はありません。

○資産、負債、元本及び基準価額の状況 (2024年1月29日現在)

項 目	当 期 末
(A)資 産	35,935,064,505円
コ ー ル ・ ロ ー ン 等	319,473,587
投資信託受益証券(評価額)	35,615,590,918
(B)負 債	85,250,831
未 払 解 約 金	85,250,000
未 払 利 息	831
(C)純 資 産 総 額(A - B)	35,849,813,674
元 本	26,565,926,201
次 期 繰 越 損 益 金	9,283,887,473
(D)受 益 権 総 口 数	26,565,926,201口
1万口当たり基準価額(C / D)	13,495円

<注記事項(運用報告書作成時には監査未了)>
(貸借対照表関係)

期首元本額	18,111,849,770円
期中追加設定元本額	13,461,008,282円
期中一部解約元本額	5,006,931,851円
期末における元本の内訳	
SBI・V・全世界株式インデックス・ファンド	26,565,926,201円

○損益の状況 (2023年1月28日～2024年1月29日)

項 目	当 期
(A)配 当 等 収 益	577,526,668円
受 取 配 当 金	576,145,113
受 取 利 息	1,657,226
支 払 利 息	△275,671
(B)有 価 証 券 売 買 損 益	6,628,491,451
売 買 損 益	6,632,398,068
売 買 損	△3,906,617
(C)そ の 他 費 用	△2,494,592
(D)当 期 損 益 金(A + B + C)	7,203,523,527
(E)前 期 繰 越 損 益 金	667,910,377
(F)追 加 信 託 差 損 益 金	2,528,181,718
(G)解 約 差 損 益 金	△1,115,728,149
(H) 計 (D + E + F + G)	9,283,887,473
次 期 繰 越 損 益 金 (H)	9,283,887,473

(注1) 損益の状況の中で(B)有価証券売買損益は期末の評価換えによるものを含みます。

(注2) 損益の状況の中で(F)追加信託差損益金とあるのは、信託の追加設定の際、追加設定をした価額から元本を差し引いた差額分をいいます。

(注3) 損益の状況の中で(G)解約差損益金とあるのは、中途解約の際、元本から解約価額を差し引いた差額分をいいます。

〈ご参考〉組入投資信託証券の概要

投資信託証券の名称	投資対象	連動する指数	経費率(年率)	委託会社
バンガード・トータル・ワールド・ストックETF	全世界株式	FTSE グローバル・オールキャップ・インデックス	0.07%	ザ・バンガード・グループ・インク

組入上位10銘柄	比率
Apple Inc.	3.7%
Microsoft Corp.	3.7%
Alphabet Inc.	2.0%
Amazon.com Inc.	1.8%
NVIDIA Corp.	1.5%
Meta Platforms Inc.	1.0%
Tesla Inc.	0.9%
Berkshire Hathaway Inc.	0.9%
Eli Lilly &Co.	0.6%
JPMorgan Chase &Co.	0.6%

組入上位業種	比率
テクノロジー	23.9%
金融	14.2%
一般消費財・サービス	14.0%
資本財・サービス	14.0%
ヘルスケア	10.8%
生活必需品	5.6%
エネルギー	4.7%
素材	4.0%
不動産	3.1%
公益事業	2.9%

出所：ザ・バンガード・グループ・インクの資料を基にSBIアセットマネジメントが作成
 (注) 2023年12月31日時点の比率です。

上記組入投資信託証券は第2期期末時点で取得可能なデータを記載しており、将来変更される場合があります。